

第 13 回日本神経理学療法学会学術集会（第 51 回日本理学療法学術大会）

学術集会長 挨拶

第 13 回日本神経理学療法学会学術集会
学術集会長 神沢 信行
(甲南女子大学)

このたび、第 13 回日本神経理学療法学会学術集会を札幌の地で開催させていただくことになりました。本大会では、前身である「神経系理学療法研究部会」のときより、学術集会を開催してまいりました。その第 1 回学術集会是 2004 年 1 月に札幌医科大学にて開催し、干支が一回りした今年度に第 13 回を開催できることは、会員の皆様の熱心な参加に支えていただいたからと感謝申し上げます。

本学会は、脳卒中、脊髄障害、神経筋障害、発達障害などの中枢神経疾患を対象として、神経系理学療法研究部会の発足時より一貫して、身体に起こる種々の現象と中枢神経系との普遍的・客観的データに基づきリーズニングを議論してきました。学術集会以外にも、「世界の中枢神経系理学療法の発展（NU-STEP から II STEP を経て III STEP へ）」、「神経科学に基づいたクリニカルリーズニング」、「脳卒中理学療法の視点と実際～脳卒中理学療法のクリニカルリーズニング～」などの研修会、講習会を開催してきました。また、徹底的な症例検討を目的とした「サテライトカンファレンス」を年数回開催してきました。これらを通じて、理学療法士が対象者をどのように理解すべきかについて議論をしてきました。私たちは対象者から与えられる種々の情報や画像などの客観的データから、目の前の現象を分析し、改善するための方策を模索しています。そのためには、中枢神経系を理解することが重要です。

その理解を進めるために、今回の特別講演では「運動制御と身体認知を支える脳内身体表現の神経基盤」について内藤栄一氏（国立研究開発法人情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター長）にご講演していただきます。シンポジウムでは「脳卒中片麻痺者の神経可塑性と歩行」をテーマに大畑光司氏（京都大学大学院）、阿部浩明氏（広南病院）、伊藤克浩氏（山梨リハビリテーション病院）にご講演をしていただき、司会の吉尾雅春氏（千里リハビリテーション病院）とともに参加者の皆様にも積極的に議論に参加していただきたいと考えております。教育講演では「神経難病の理学療法」について望月久氏（文京学院大学大学院）にご講演していただきます。

本学術集会での一般演題を含めて活発な議論が繰り広げられることを期待するとともに、会員の皆様の明日からの臨床や研究に多くの示唆を与えてくれることを確信しております。

第13回日本神経理学療法学会学術集会（第51回日本理学療法学術大会）

日時 2016年5月27日（金）～29日（日）
会場 札幌コンベンションセンター（北海道札幌市）
学術集会長 神沢 信行（甲南女子大学）

【特別講演】

テーマ 運動制御と身体認知を支える脳内身体表現の神経基盤

日時 5月27日（金）11:50～12:50

講師 内藤 栄一 氏（国立研究開発法人情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター）

司会 高村 浩司（健康科学大学）

【シンポジウム】

テーマ 脳卒中片麻痺患者の神経可塑性と歩行

日時 5月27日（金）15:20～17:30

シンポジスト 大畑 光司（京都大学大学院）

阿部 浩明（広南病院）

伊藤 克浩（山梨リハビリテーション病院）

司会 吉尾 雅春（千里リハビリテーション病院）

【教育講演】

テーマ 神経難病の理学療法

日時 5月29日（日）10:40～11:40

講師 望月 久（文京学院大学大学院）

司会 神沢 信行（甲南女子大学）